

参謀－SANBOU－プログラム

一宮西病院総合救急部の専攻医共通

SANBOUプログラムは、救急外来、病棟、集中治療の各ステージにおいて単独で医療を遂行できる力を身につけるのが目的です。戦場において単独で作戦を遂行でき、さらには現場において適切な助言ができる参謀のように、どのようなエリアにおいても持続的に成長できる人材を育成するのが目的です。

そのためSANBOUプログラムでは、ただ専門医を取得することだけの次元では終わらず、最新の**Evidence**に基づいた知識・技術を自らアップデートさせる手法を身につけること、現場のリーダーとして**リーダーシップ**を理解し研修医や看護師、救急隊を**教育**できること、**レジリエンス**を備えてイカリを降ろした船のように**災害**のような嵐にあっても適切に動くことができる力を養うことに主眼が置かれています。

これらの能力は、すでに総合救急部内で運用されている手法を自ら立案・遂行するだけでなく、部門内で行われる**マネジメントデイ**において実行力を高めることで培われます。ただ専門医を取得するために諾々と時間を消費するだけの従来の専攻医育成プログラムとは軸の異なったものとなっています。

Evidence

専攻医に必要な能力の一つが最新論文へのキャッチアップです。そのためには必要なジャンルのReview articleを読むこと、絶えず最新の情報に触れることです。ICTを活用することで、その両者を自然と促すメソッドが総合救急部では共有されています。

教育

教育とはInputしたEvidenceをOutputする場でもあります。Outputの場が提供されなければ、自発的にInputする機会が減り、Outputの場があることで自らの成長を促すことができます。部門内外でOutputの場として各種勉強会、ICTツール、執筆活動への参加の機会が豊富に用意されています。



災害

一宮西病院では年に2回の災害訓練を行っており、病院全体を巻き込んだ訓練で主役となるのは総合救急部の面々です。部内にはDMATの資格をもった指導医がおり、リアリティを上げるために実災害を想定したイベントが付与されます。災害時に必要とされるCommand & Controlからスタートする状況を経験できるトレーニングの場が、病院全体で作られます。

統括DMAT	安藤裕貴
DMAT隊員	丹野翔五



リーダーシップ

専攻医教育の中にあって医師としてチームを引っ張っていくリーダーシップを謳うものは多くありません。総合救急部ではリーダーとして必要な資質にどのようなものがあるかを教えた上で、実践の場としてチーフレジデントという名称を与えリーダーシップ教育をしています。部門内でリーダーとして要求されるものが認識されているからこそ、全体でリーダーを育てる雰囲気があります。



レジリエンス

レジリエンスとは「折れない心」や「弾力性」と訳されるもので、変化に富む現場においてしなやかに自らの考えや態度を変化させることを表します。この能力を涵養するのに最適な場所は、常に現場が変化し続ける救急外来が最適なのは言うまでもありません。



マネジメントデイ

所属長との面談を行う機会が定期的に用意されています。その日をマネジメントデイと呼び、現在行っている企画の進捗度や自己の成長度合いを確認していきます。主観的な自己評価に終わることなく、客観的な自己評価を行うことで、バランスよく成長するためのシステムです。